



NEWS RELEASE

国土交通省 近畿運輸局

問い合わせ先

(所属) 海事振興部船員労政課

(担当) 大樽、濱下

(電話) 06-6949-6435

令和7年6月30日

内航船員の確保・育成対策 社会福祉法人海の子学園及び滋賀県豊郷町立日栄小学校にて 出前講座を実施しました！

内航海運は、日本経済を支える重要な産業です。これを支える船員は、業界全体として若年層が増加傾向にあるものの高齢化は著しく、将来における担い手不足が生じないように十分な数の船員の確保が必要とされております。

これを受け、国土交通省では、内航船員の確保育成施策を推進しており、近畿運輸局においては、近畿内航船員対策協議会と連携して、若年船員の確保に向けて各種事業を実施しています。

今般、“社会福祉法人海の子学園 児童養護施設 入舟寮”及び“滋賀県豊郷町立日栄小学校”において、出前講座を実施しましたので、お知らせいたします。

- 実施日： 令和7年6月21日（土）
対象者： 社会福祉法人海の子学園 児童養護施設 入舟寮
児童 39名、施設職員 10名
講師： 近畿内航船員対策協議会 白石 紗苗 氏
- 実施日： 令和7年6月23日（月）
対象者： 滋賀県豊郷町立日栄小学校：小学6年生39名
講師： 近畿内航船員対策協議会 礒合 信之 氏

配布パンフレット等：「船の仕事ってなに？」（日本内航海運組合総連合会）
「What is 内航海運？」（日本内航海運組合総連合会）



「C to Sea プロジェクト」
海と船がもっと楽しく身近になる情報発信中！！
海と船のポータルサイト「海ココ」開設 →



配布先：海運関係業界プレス

近畿運輸局及び近畿内航船員対策協議会（会長：山本一人 三興海運(株)代表取締役会長）では、内航の若年船員不足に対する施策の一つとして、海運の重要性や船員の仕事についてPRし、海の仕事や船に対する子ども達の興味や関心を高めて、船員の仕事を将来の職業の選択肢として捉えてもらうことなどを目的に「出前講座」を実施しています。

1. 児童養護施設の子ども達を対象に出前講座を実施しました。

令和7年6月21日（土）、大阪府大阪市の社会福祉法人海の子学園が運営する児童養護施設「入舟寮」の子ども達を対象に、出前講座を実施しました。

講座は、近畿内航船員対策協議会の構成員である白石海運（株）の白石代表取締役専務を講師に迎え、入所児童39名と、施設職員10名の計49名が参加しました。



講座では、講師手作りのパネルと、船の形をしたブロック玩具を用いて、海運および船員の仕事が身の回りの生活にどのように関わっているかを理解してもらうために、海運に関するクイズを出題することで、子どもたちが積極的に参加できる形で行いました。

最初に、人類が誕生した時から始まった船の歴史について説明を行い、子どもたちに船の形をしたブロック玩具と文鎮を実際に水に浮かせる実験を通して「どうして大きくて重い船が水に浮くのか？」を理解してもらいました。

クイズは、輸入の主要品目を当てるものから海賊が出た時の撃退方法まで幅広く出題され、出題されるたびにたくさんの子ども達から回答があり、賑やかな雰囲気です。

船に乗って働く人々は、主に3つに分かれていて、ブリッジに立って船を動かす人（航海士）、エンジン等の整備を行っている人（機関士）、船員の料理を作っている人（司厨長）、がいることを紹介しました。また、船員は国家資格であり、船員法という法律で守られていることや、女性も船員として活躍していることを伝えました。



船の仕事については、多くの仕事がAIの技術発展によりなくなっていくが、エネルギー資源のほとんどを海外の輸入に頼っている島国の日本では、なくなることはない大変重要な仕事であることを伝えました。

最後に講師から、「身の回りにあるものは、皆さんの手元に届くまでに数えきれない人々の仕事関わっている。手元にあるものがどんな人の仕事でできているか、その仕事に就くにはどんな学校に行けば良いか、と考えて毎日を過ごしてもらえたら嬉しいです。」とメッセージを送り、終了となりました。



2. 滋賀県豊郷町立日栄小学校で出前講座を実施しました。

令和7年6月23日（月）に滋賀県豊郷町立日栄小学校において、「海運の重要性と船員の仕事について」をテーマとした出前講座を実施し、6年生39名が参加しました。

当日は、近畿内航船員対策協議会の磯合構成員（三興海運（株）専務取締役）を講師として、日頃、船員に接する機会の少ない生徒に、「海運」がなぜ重要か、「船員」はどのような仕事をしているかについて、世界地図やパワーポイントを使うなどわかりやすく説明しました。



講座では、自動車や電車などたくさんの乗りものがあるが、人類が誕生した時からあるのは船であることを伝え、日本は輸入の99.6%を船で担っており、小麦や大豆などの食料自給率が低く、石油や鉄鋼などの産業基礎資材のほとんどを輸入に頼っているため、船の仕事は、非常に重要な役割を担っており、非常にやりがいがある仕事であることを伝えました。

また、船の大きさをイメージしやすいように、「あべのハルカス」を横にした位の長さになることを説明し、大量の物資を一度に運ぶことができる船の強みを紹介しました。

船員の働き方として、2～3ヶ月乗船して20日～1ヶ月の休暇を取得するのが一般的なサイクルであり、住む場所と働く場所が同じであることから通勤の必要がないことなど、陸上職との違いを意識してもらい、船員という職業に接点の少ない生徒たちにもイメージしやすいように説明しました。また、長期間の休暇を利用し、自分の趣味や旅行を満喫できることなど、まとまった休暇を取得できる船員ならではのメリットも紹介しました。



また、給与面においても、船員は陸上職を大きく上回っている点など、船員として働くことの魅力を伝え、船は国際条約でルールが決められているので、タンカー等の危険物を輸送する船でも安全に運航していることも伝えました。



最後に、「早いうちに自分のやりたいことを見つけると、早くからその知識を身につけることができ、やりたいことを実現しやすくなる。学校の苦手な勉強にも頑張って取り組んでいくことができると思う。」というメッセージを送り、講義は終了となりました。

今回、参加した子ども達には、世の中には様々な仕事があることを知ってもらい、将来の目標を考えていく中で、海の仕事も選択肢にいれてもらいながら、これからも学業に取り組んでいってほしいと考えています。

近畿運輸局では、今後も近畿内航船員対策協議会と連携して、子ども達を対象とした取り組みを進めていきたいと考えています。

(近畿運輸局 海事振興部 船員労政課)